SuFRe スフレ通信 Times
信州大学 SHINSHU UNIVERSITY
男女共同参画推進委員会
男女共同参画推進センター
https://www.shinshu-u.ac.jp/danjo/
No.50
2024 Sep.
9

令和５年度男女共同参画に関するアンケート調査集計結果

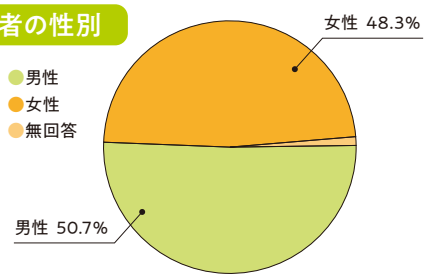
この調査は、現行の支援制度の認知度や有用性を確認し、改善点についても意見を聴取することで、新たな支援制度や取組のニーズを把握し、全教職員にとって働きやすい環境を作るために実施したものです。

1. 調査の概要

実施期間	調査対象者	回答者	回答率
令和６年２月1日～26日	本学の教職員　5,778人	865人	15.0%

2. 回答者の状況

回答者の性別



回答者の職種

	教員	事務系・技術系職員	医療系	合計
男　性	226	207	5	438
女　性	64	332	22	418
無回答	4	5	0	9
合　計	294	544	27	865

回答者は女性が48.3%、男性が50.7%、無回答が1.0%となりました。職種でみると、事務系・技術系職員が62.9%、教員が34.0%、医療系が3.1%となり、前回調査（令和2年度）と同様に、医療職の回答が最も低い結果となりました。

3. 自由記載のご意見への回答（一部抜粋）

育児・介護について

ご意見

- 誰もが直面するであろう介護について、仕事を続けていけるシステムが広がるとありがたいです。
- 育児は困難やストレスも多いと思います。実際に起きた困りごとをどこかで共有することで多くの方へ実態が伝わるようにも思います。
- 育休・育児に対する考え方は若い世代と管理職世代で考え方・感触が異なると感じることもあるので、研修等による考え方のアップデートも必要と思います。
- 育児・介護休業中の業務を引き受けることになる職員の負荷軽減が重要だと思います。
- 育休の取得率・数値そのものを高めるような施策ではなく、業務の実情を考慮してその中で部署全体として気兼ねなく取得しやすいような風土・文化の形成を担っていただけましたら大変嬉しいです。
- 女性の役職者や男性の育児取得の向上等、望む人がいる一方、望まない人もいます。それが、悪しきことであるとはならないようなアナウンスにご配慮いただきたいと思います。
- 現在、勤務している部署での育児介護休業への理解は高いと思います。学部による違いがありそうですので、意識が高い学部や部署の取り組みを共有したり、課題を共有したり、学部同士が交流するなどして、どの学部・部署でも意識を高めていけるといいと思います。

回　答

- 男性の育児休業や介護休業などは、多くの方に制度を利用していただくことで、課題や改善点などが見え、環境が整えられていきますので、上司や同僚に相談しながら取得していただきたいです。また、今年度実施したようなワーク・ライフ・バランス研修を充実させ、育児・介護中の方はもちろん、管理職の方やサポートする側の方にも参加していただけるようにし、お互いの違いを理解して、協力し合える職場環境をつくるための研修を実施していきたいと思います。

周知について

ご意見

- 育児、介護のための制度についての情報発信をもっとして欲しい。
- 制度を理解するためのe-learning研修などがあると良いと思う。

回　答

- 改善に役立つご意見をありがとうございます。全学周知やe-learning研修を実施して、さらなる周知に努めたいと思います。

今後、分析結果や自由意見を参考にしながら男女共同参画を推進していきたいと思います。
一人ひとりが働きやすい職場をみんなで作り上げていきましょう。詳細については、後日、学内のホームページに掲載予定です。

令和６年度信州大学男女共同参画推進研修
「ワーク・ライフ・バランス研修」を実施しました（６月18日）

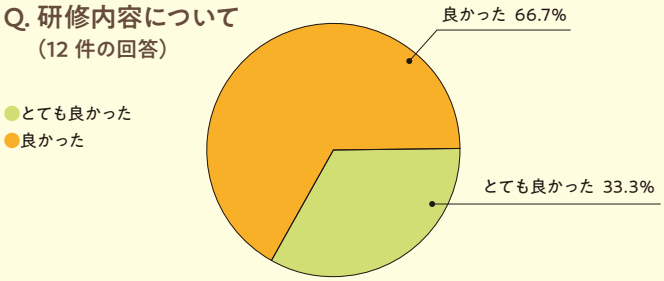
令和5年度実施の男女共同参画アンケートでは「育児・介護休暇を取得しやすい」と回答した方がいる一方で、取得しづらさを感じる要因として、「業務量が多い」「周りに迷惑がかかる」等、業務遂行に当たり周りの方との協力体制づくりや職場環境の改善を求める声が見受けられたため、本研修を実施しました。

対象者は①育児中の方②介護中の方③管理職(上位職)で、受講者12名が管理職グループ1つ、育児中グループ2つに分かれて行いました。グループワークを通して同じ悩みを持つ方々と日頃の思いを吐き出し、対話の中から「様々な環境・考え」があることを知り、自分の「ありたい姿・目指したい生き方」を描くことの必要性を考えるものになりました。

今後の課題としては介護中の方や管理職の方にも積極的に参加していただき、日頃の困りごとを少しでも減らしていただけると良いと感じています。

受講者アンケート集計結果　回答者12人

Q. 研修内容について
（12 件の回答）



受講者の感想

- 自分の強みを考えるいい機会になりました。柔軟に考えて適応できる人になりたいと思いました。自分の満足度も大切ですが、評価にも多様性を踏まえる必要があるのではないかと感じました。
- 育った時代や社会人になった時代が違う上司と部下の関係において、意見の食い違いは必至なのかなと思った。その中でも自分の軸を持ち譲らない部分をしっかり持ちたいと思った。

Interview

全学教育センター長　インタビュー

令和６年４月１日に全学教育センター長に就任された
杉本光公（すぎもとみつきみ）センター長に、関利恵子男女共同参画推進センター長がインタビューをしました

杉本（すぎもと） 光公（みつきみ） 全学教育センター長

全学教育センターの男女共同参画の現状と課題

関男女共同参画推進センター長（以下、「関」）：全学教育センターの男女共同参画の現状ということで、男女の割合を教えてください。

杉本全学教育センター長（以下、「杉本」）：女性8人、男性20人で女性の割合は3割程度です。だいたい理系は男性が多くて語学は女性が多いです。今後のビジョンとしてはもう少し女性の数を増やしたいです。特に執行部で運営として活躍できる人が増えてほしいと考えています。新しい人も求められていますが、ここ2年くらいは人が辞めても後任ポストを採用できないのが課題です。

ワーク・ライフ・バランスとウェルビーイング

関：イクボス宣言に、ワーク・ライフ・バランスの実現を積極的に推進するとありますが、お聞かせください。

杉本：私は朝ごはんを作る担当です。子どもたちが高校生だった時は毎日お弁当作りもしていました。昔はトライアスロンの大会に出場し、今は狩猟をやっていて、仕事と私生活の調和を大事にしています。センター長としては、会議をなるべく減らしたいです。働きやすい組織にするために業務を取捨選択して、楽しく仕事ができるように幸福感を感じられる職場にしたいです。

関：まさにウェルビーイングですね。今まで様々な経験をされる中で幸せとは何かを追求して、この組織でもウェルビーイングを目指すということですね。

ダイバーシティの推進

関：やってみたいことはありますか。

杉本：ダイバーシティの推進です。総合人間科学系の教員が所属する十数のセンター等があります。この建物にいらっしゃるのに顔も名前もわからない人が結構いらっしゃるので、この建物の中の人たちで一度バーベキューでもやりたいと思っています。コミュニケーションをとっていろんな方のお話を聞くのも楽しいですし、信州大学に入ったばかりの一年生にこんな研究もあるよ、こんな先生方がいるよと出せるといいと常々思っています。

関：ダイバーシティを推進するにあたっては土壌が整っていますね。様々な分野が調和を取れるような、まさに真のダイバーシティです。

※5月14日に取材したインタビュー記事を抜粋掲載しております。インタビュー全文はこちらからご覧いただけます。
https://www.shinshu-u.ac.jp/danjo/awareness/interview/post-14.php

NEWS & TOPICS

■令和６年度男女共同参画セミナー開催

「みんなで信州の未来を考えよう 2024」

—女性活躍推進キャラバン　第４弾—

開催日時：令和6年９月12日（木）　13:30～15:30
開催場所：INADANI　SEES　※Zoomによるライブ配信あり
申込受付中：9月10日（火）〆切
多くの方のご参加をお待ちしています！
詳細は男女共同参画推進センターのホームページをご覧ください。
https://www.shinshu-u.ac.jp/danjo/news/event/91220244.php

（予告）「みんなで信州の未来を考えよう 2024」

—女性活躍推進キャラバン　第5弾—

開催日時：令和6年12月19日（木）　13:30～15:30
開催場所：信州大学　長野（工学）キャンパス　AICS2階

■前期講義「人生 100 年時代のライフデザイン」が終了しました

受講者は100名でした。
講義のアンケートでは、「自分自身や自分の人生について深く考え、可能性や希望を持つきっかけになった」、「これまで疎かったジェンダー問題などを詳しく知り、知見が広がった」などの感想が見られました。

■令和６年度（10-3月期）研究補助者制度の利用者決定

令和6年度（10-3月期）研究補助者制度の利用者を審査のうえ決定しました。

選考結果：利用決定者11名（女性7名、男性4名）

■令和6年度リスタートアップ研究費支援制度の利用者決定

今年度初めて実施しましたリスタートアップ研究費支援制度の利用者を審査のうえ決定しました。

選考結果：利用決定者4名（女性3名、男性1名）

活き“粋”コラムリレー Column Relay 第2回

このコラムは、本学で“活き活き”働く教職員がリレー形式でお届けする“粋”なコラムです。

橋本（はしもと） 彩（あや） 准教授

学術研究院（社会科学系）

家族構成
夫・長女（6歳）・長男（1歳）

あなたのリラックス法は？
最近、運動不足解消に始めた「リングフィット　アドベンチャー」（筋トレするゲーム）。お姉ちゃんも一緒にやっています。

２人目はたくましくなるって、わかる気がする！

昨年、第2子を出産し、育休を取得していました。0歳児と家に引きこもろうと思って、積み重ねたままになっているマンガや小説をルンルンと用意していたのですが…、結局、ほとんど手つかずのまま。復帰するまでに、少し授業の準備とかしておいたら楽になるはずと思って積んだ教科書も、ほぼ積んだときのまま。上の子のときと同じような感じかな、むしろ上の子の経験があるから少し楽かもと思っていたら、想定していたよりも、忙しかったです。

1人目を出産したときとは違って、やれ保育園へのお迎えだ、やれ自転車の練習をするから公園に来てほしいだと、お姉ちゃんに付き合って外に行くことが多かったですね。じいじ・ばあばが家族旅行に誘ってきてくれたので、2か月にして、高原お散歩デビューをしたりもしました。こうして下の子は、他の家族の予定に合わせてお出かけをしたりして、たくましく育つのかなという片鱗を感じました。

じいじ・ばあばと高原お散歩デビュー

自転車、練習中！

わさびソフト、美味しそうだね

お問い合わせ
信州大学　男女共同参画推進センター（SuFRe）

〒 390-8621 松本市旭 3-1-1
内線 811-2150 , 811-2140
TEL 0263-37-3150　FAX 0263-37-3314
mail sufre@shinshu-u.ac.jp

教育学部分室
〒 380-8544
長野市西長野 6- 口
内線 831-4018

工学部分室
〒 380-8533
長野市若里 4-17-1
内線 821-5693

農学部分室
〒 399-4598
上伊那郡南箕輪村 8304
内線 851-3120

繊維学部分室
〒 386-8567
上田市常田 3-15-1
内線 841-5031

信州大学　スフレ　検索

バックナンバーはこちらからご覧いただけます。　▶ https://www.shinshu-u.ac.jp/danjo/article/sufre/